

令和7年度 土木建築委員会 県外所管事務調査の概要

◆ 調査日程 令和7年8月24日（日）～8月26日（火）

◆ 調査先・調査内容

① 北海道開発局 釧路開発建設部 道路計画課（北海道釧路市）

調査内容：道東自動車道の整備について

道東自動車道は、本別IC－釧路西IC間（延長約65キロメートル）を平成15年度から新直轄方式により、北海道開発局が事業を実施してきた。そのうち阿寒IC－釧路西IC間は令和6年12月22日に供用開始された。同路線は、昭和32年に計画されて以来、地域としても要望を続けてきた念願の路線であり、この開通により札幌－釧路間は片道約4時間で移動できるようになり、一般道利用時に比べて往復で約5時間短縮できるようになった。

道東自動車道の開通により、移動時間の短縮のほかにも、空港と主要観光地間の移動時間短縮による観光周遊性の高いネットワークの構築、道央圏や釧路港への速達性が向上することによる効率的な物流ネットワークの構築、医療施設への速達性向上による地域で生活できる環境の維持など、様々な整備効果が期待されている。

本県においては、大分市から熊本市を結ぶ延長約120キロメートルの地域高規格道路である中九州横断道路の整備を進めている。中九州横断道路は平成6年に計画路線となって以来30年以上取り組んできた事業であるが、現在の供用区間は全体の約30%であり、全線早期完成が求められている。

今回は、道東自動車道の整備概要、開通までの取組及び開通後の状況等について説明を受けた。

<主な事前質問等>

- ・道東自動車道における有料区間の接続状況について
- ・片側1車線が基本である高規格道路の災害及び事故対策について
- ・ワイヤーロープの設置状況について



② 道の駅おとふけ なつぞらのふる里（北海道音更町）

調査内容：道の駅おとふけ なつぞらのふる里 リニューアルの取組について

音更（おとふけ）町では、農畜産物や地場産品を通じて地域の魅力を発信し、人が交流できる「魅力発信エリア」の拠点を目指し、国道近くにあった道の駅おとふけを高速道のIC付近へ移転・リニューアルオープンした。

具体的には令和元年5月に民間連携によるDBO（設計・建設・運営一括）方式を採用し、ヴェスタおとふけグループを事業者を選定した。同年7月に基本協定を締結し、以降基本計画と基本設計を進め、令和3年12月に建物が完成、令和4年4月にリニューアルオープンに至った。

テーマを「食」と「賑わい」と「安全・安心」の拠点に、としており、食を通じた賑わい・交流の創出、魅力の発信・交流拠点といった取組を進めている。さらに、非災害時の道路利用者などの一時避難場所として必要な物資を備蓄しており、令和5年3月には道路法に基づく防災拠点自動車駐車場に指定されるなど、広域的な災害応急対策の活動拠点としての役割も担っている。

また、NHK連続テレビ小説なつぞらのセットを敷地内に再現し、ドラマ世界の体感や記念撮影スポットとしても好評を得ており、開業後は来館者数が急増し、移転後1年で目標150万人を達成した。令和6年春までに累計400万人を突破するなど、賑わいの拠点として成功している。

今回は、道の駅おとふけの概要、公共施設のDBO方式の取組及び道の駅の防災機能等について説明を受けた後、施設を見学した。

<主な質疑等>

- ・DBO方式における指定管理者の収入について
- ・道の駅の広報の方法について
- ・道の駅の商品展開や売上げ増加における全体的な戦略について



③ 北海道旧庁舎（赤れんが庁舎）及び北海道議会（北海道札幌市）

調査内容：赤れんが庁舎の改修事業について

赤れんが庁舎は、明治21年の竣工以来、明治・大正・昭和期を経て北海道行政の中核を担ってきた国指定重要文化財である。昭和43年の新庁舎新築に伴い、赤れんが庁舎は復原工事を経て歴史的価値を保ってきたが、築後50年を超えた劣化と耐震性不足が深刻化したため、大規模な保存修理、耐震補強、設備更新、バリアフリー化及び省エネ化を目的とした改修事業が進められた。

改修は平成24年から基本計画・調査を開始し、令和元年12月に本格着工した。屋根のふき替え、れんが壁の欠損修復、内装材張り替えなどの保存修理、鋼材を用いたれんが壁強化による耐震改修、省エネ設備、バリアフリー対応などの公開機能向上工事が行われた。また、建設中は景観保全を目的に素屋根と呼ばれる仮設保護屋根や仮設見学施設も設置されていた。

改修工事は令和6年度に竣工し、令和7年7月25日にリニューアルオープンしている。改修後の館内は「歴史と文化」「地域情報とにぎわい」「学びと継承」の3フロア構成に刷新され、道内市町村の情報発信機能を備えるほか、展示の見直しにより道民・観光客向けの発信拠点としての役割が強化されている。また、貸室や八角塔見学などの新たな運用も始まり、文化財の保存にとどまらない観光・交流空間の取組を進めている。

今回は、赤れんが庁舎を見学し、改修事業の概要、文化財としての改修工事について及び公開活用工事等について説明を受けた。

<主な質疑等>

- ・今回の改修によって新たに展示した内容について
- ・赤れんが庁舎で使用されているれんがについて
- ・赤れんが庁舎の貸室の利用状況について

